

輝 き プ ラ ン

褥 瘡 を 予 防 し な が ら 、
仲 間 と 麻 雀 を 楽 し む

リスクに向き合いK様の望む暮らしの実現に向けて

トラストグレイス御影介護棟
・小野寺 真理子
・榎本 欣司（居室担当者）

はじめに

私達は下肢の感覚障害によって臀部に褥瘡ができてしまったことにより、日常生活に制限を設けたご入居者の本当に望む暮らし

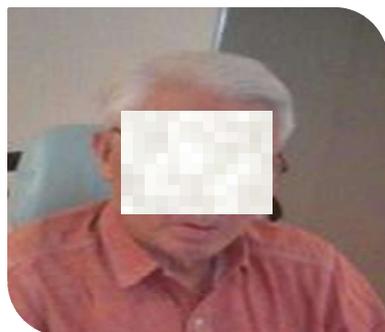
「褥瘡を予防しながら、仲間と麻雀を楽しみたい。」という希望を輝きプランとして取り組み実現した事例を発表します。



K様の紹介①

病歴

パーキンソン病
腰椎圧迫骨折
遅発性神経障害
心房細動
高血圧症



男性/83歳/要介護4

入居の経緯

2018年下肢の痺れ、腰痛が酷くなったことで車いすの生活となり介護棟に入居。

入居後は尿路感染、誤嚥性肺炎、褥瘡、蜂窩織炎により入退院を繰り返している。



K様の紹介②

現在

障害高齢者の日常生活自立度：C1

腰から下は感覚がなく力が入らない。リクライニング車いすにスタッフ2名で移乗介助を行っている。バルーン留置。褥瘡がありエアマットを使用

認知症高齢者の日常生活自立度：自立

裁判官を37年間務められ、定年後は車いす生活になるまで弁護士として働かれていました。

現在もパソコンやスマホも使いこなして楽しんでいます。

K様の紹介③

身長：173cm

体重：71kg

大柄な男性で皮膚が脆弱

車いすの座位の時に臀部のずり落ちがあり
臀部と大腿部の境目に褥瘡ができてしまう。

K様の生活の課題は褥瘡の治療と悪化予防になる。

褥瘡を治すため

やりたいこと

リスク

K様の生活スタイルを大きく変える必要がある

カンファレンス

K様の課題 『褥瘡』

看護師

褥瘡外来受診
専門医の指示のもと日々の
褥瘡処置を実施

管理栄養士

栄養状態の改善の評価
褥瘡に関わる不足している栄養素の補給(CP-10ジュースの提供)

機能訓練指導員

車いすのポジショニングの指導
除圧・生活リハビリの
アドバイス

介護士

皮膚の清潔保持
生活リハビリの実施

ケアプラン

K様の目標

『褥瘡を悪化させない』

医師の指示により離床時間に制限を設けた生活プラン

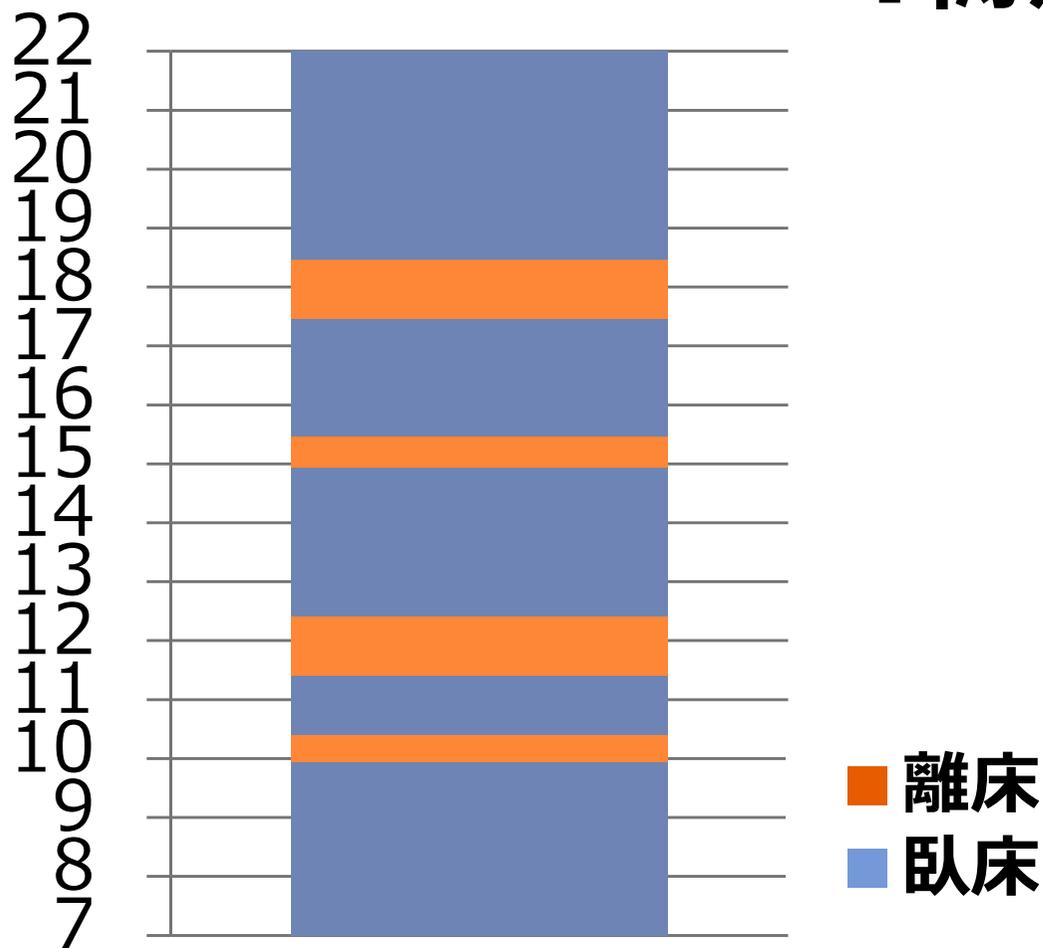
サービス内容

- ①朝食・おやつはベッド上で済ませる。
昼食・夕食はダイニングで他のご入居者と一緒に食べる。
- ②スマホ操作・新聞を読むことはベッド上で寝た状態で行う。
- ③趣味のパソコンは15時から30分と時間を制限し楽しむ。



一日の離床時間

K様の目標 『褥瘡を悪化させない』



できる限り車いすに座る時間を減らした生活に変更

初回カンファレンス時



サービス実施

K様の褥瘡は改善しスタッフは喜んでいました。皮膚が脆弱で褥瘡の再発リスクがあるため引き続き制限のある生活を続ける必要をK様に伝える。

K様が居室担当者（榎本）に今の自分の生活について本心を述べられる。

「褥瘡があるので制限が必要なことはわかるけど、ベッドで寝ながら新聞を読むのはとても疲れる…人は起きて生活するのが普通で、寝てばかりいることは異常な生活だ。」



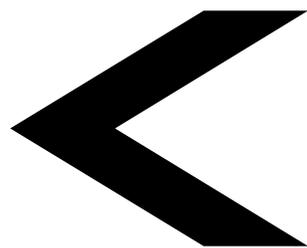
専門職の思い

- ・ 褥瘡の治療は早期の対応が重要なこと。褥瘡を治すことを優先した生活を最善と考えて医療に特化したサービスを提供した。

K様の思い

- ・ 医療に特化したサービスを提供していたことで、K様の生活は不快な日々となり、楽しくない日常を過ごしていた…

K様の思い



課題解決を優先

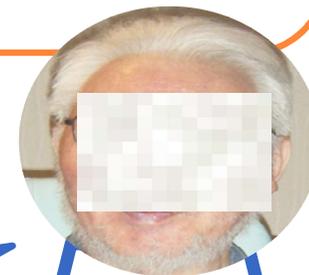




榎本

今の生活はK様が望んでいるK様らしい生活だと思いません。
リスクと向き合いながらK様の望む暮らしを実現したい。
『輝きプラン』として取り組みたい！

ただ生活しているだけの毎日ではなく、
楽しいことをして毎日を充実させたい



K様

麻雀が出来ないかな。
仲間を見つけて楽しく麻雀がしたい



榎本

僕がK様の思いを『輝きプラン』として実現
するために多職種へ働きかけてみよう！



再カンファレンス

課題は 『輝きプランの実現』

看護師

医師に改善していることを説明、制限を緩和してもらおう。写真で褥瘡の記録観察、変化があれば受診を

管理栄養士

栄養状態の改善の評価
褥瘡に関わる不足している栄養素の補給(CP-10ジュースの提供)

K様

生活リハビリの
取り組みへの意欲

機能訓練指導員

座位時間が長くなることで
臀部に負担がかからない
方法を検討

介護士(居室担当者)

麻雀を行うために必要な
段取りをK様と決める

輝きプランの長期目標

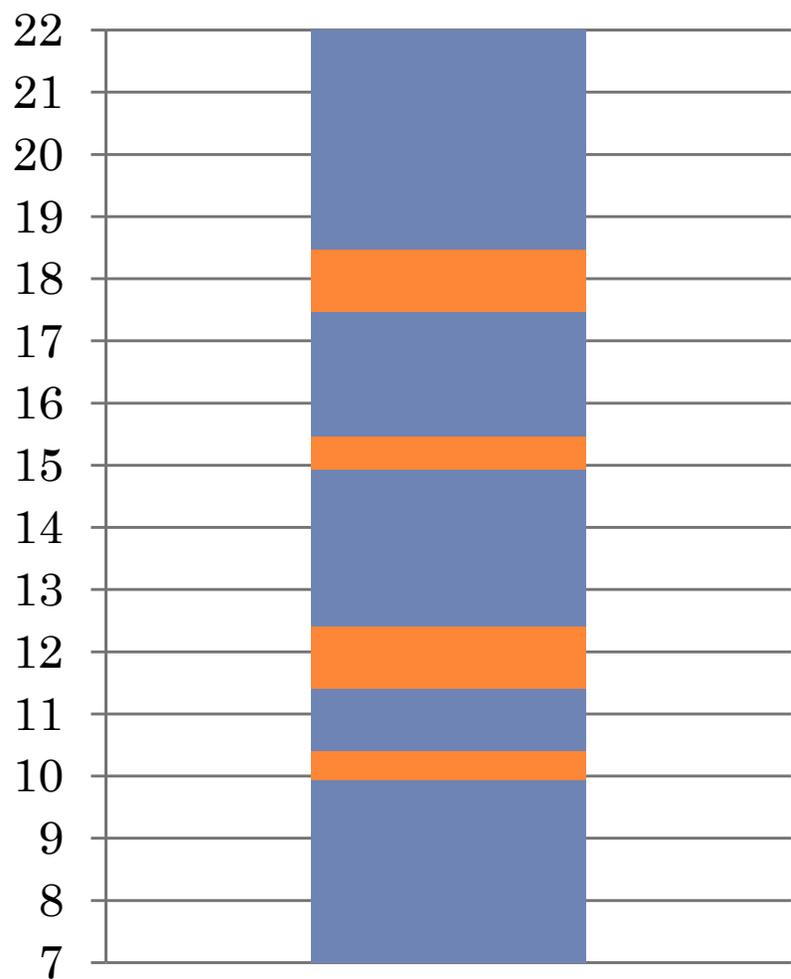
『褥瘡を予防しながら、仲間と麻雀を楽しむ。』

サービス内容

- ①日中のベッド臥床の時間をダイニングで車いすをフルリクライニングにし10分休憩する。
- ②車いす座位の姿勢が崩れないよう、定期的に座り直しを行う。除圧の回数を増やす。
- ③生活リハビリは、パット交換時に臀部を浮かしてもらい協力動作を取り入れる。
- ④他のご入居者に麻雀の参加の声掛けをする。
初心者向けの麻雀入門書の作成
- ⑤開始～終了時間を自分で決めて時間の意識を持つ

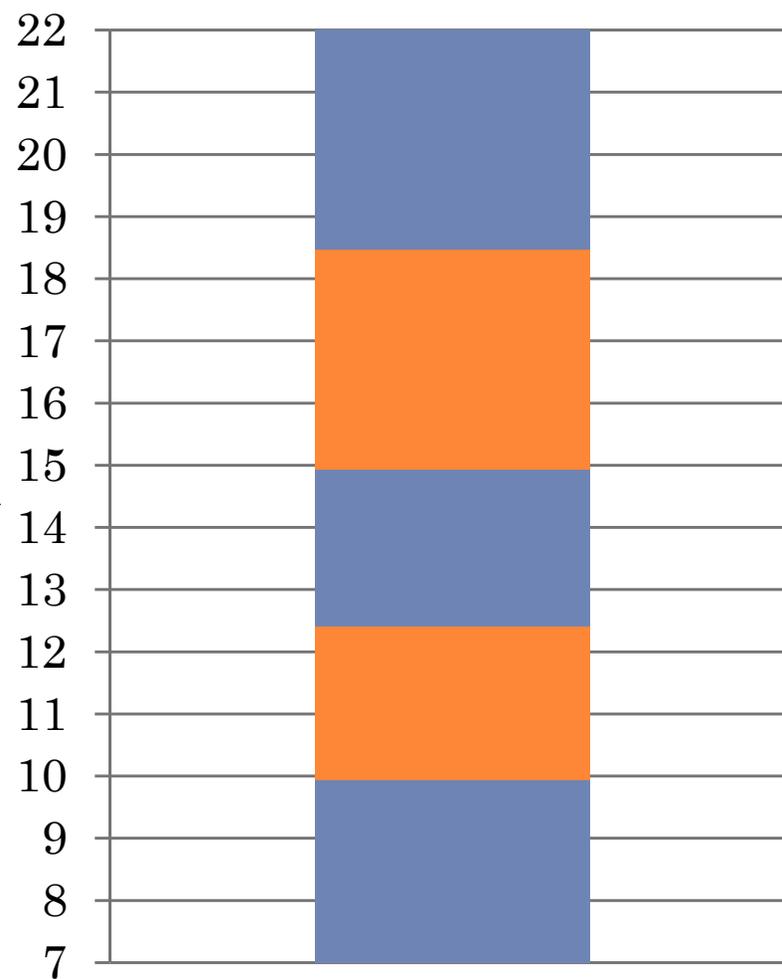
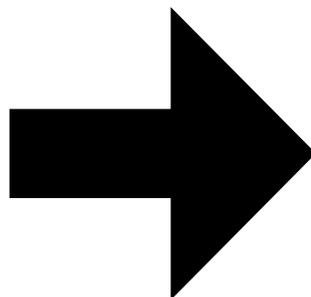


離床時間の変化



初回カンファレンス時

■ 離床
■ 臥床



再カンファレンス後

輝きプランの



実現！



輝きプランに取り組みK様に変化が現れる

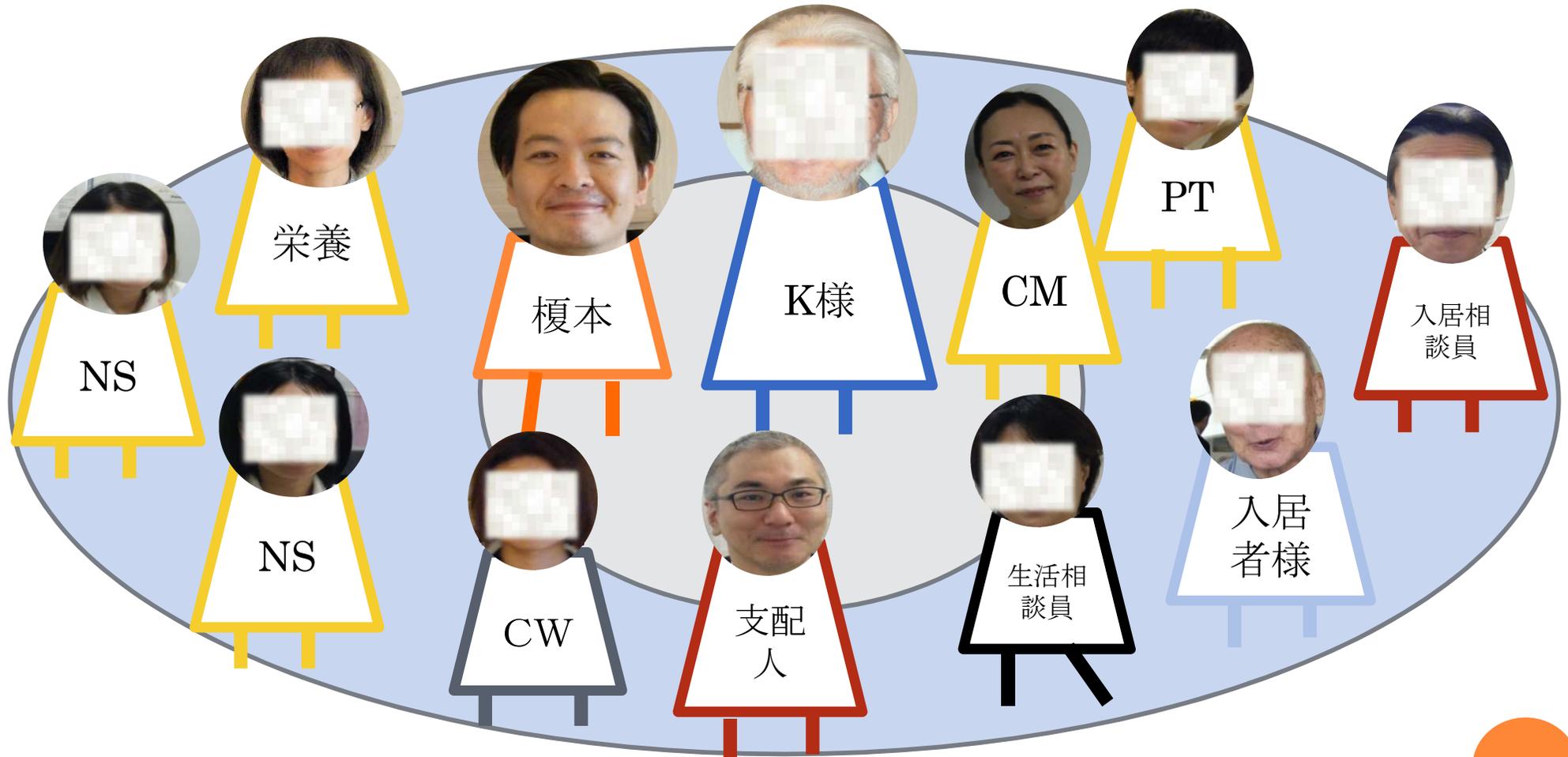
- 座位時間の制限への不満を訴えられていたが、時間の制限に対して協力的になる
- 生活リハビリに積極的に取り組み活動量が増え、栄養面、生活リズムの改善が見られた
- 職員と麻雀の会話が増える
- **K様の思いの変化**
麻雀を楽しみたいという気持ちから、もっと麻雀が上手になって初心者の人に教えられるようになりたい。麻雀仲間を増やして皆で楽しみたい。

自分が麻雀を教えてあげたいという

積極的な気持ちが出てきた！



K様の本当に望む暮らしを実現することができたのは、K様のことを一番理解し生活に深く関わっている居室担当者が、主体性をもって多職種に働きかけK様と一緒に輝きプランに取り組んだから。



麻雀という楽しみを目標にしたことでK様の不満が解消し、現在も褥瘡の再発はありません。

最後に

麻雀といえばK様の『輝きプラン』

全職員が連想できるほどに周知。

ご入居者の中には、ご自分の気持ちや要望を声に出して伝えることが出来ず、輝きを見つけてるのが難しいことも・・・

居室担当者によって、輝きプランへの意識や、実現に向けてのスキルの差が・・・

ですが、これからも居室担当者を中心に多職種で協力し取り組み続けることで、ご入居者様の**輝き**を増やしていきます。



ご清聴ありがとうございました。

